

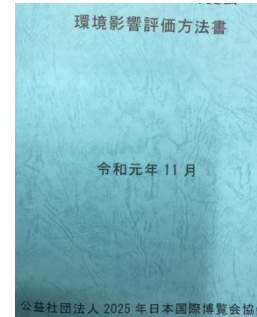
環境影響評価方法書に関する意見書

写真の 2025 年大阪万博「環境影響評価方法書」に関する意見書を正月にとりまとめ、博覧会協会に送付した。意見書の提出は明日 6 日までだ。万博の環境アセスメントにとって、「方法書」は重要である。多くの皆さんから意見を！意見書の前半を紹介します。

対象事業 2025 年日本国際博覧会

事業者 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会

提出者 山田明 (住所と電話番号は略)



方法書についての環境の保全及び創造の見地からの意見

本報告書は 2025 年国際博覧会（以下、大阪万博と略す）について、大阪市環境影響評価条例に基づいて実施される環境影響評価（環境アセスと略す）である。大阪万博は 2005 年の愛知万博に続いて、「登録博覧会」として BIE の承認のもとに開催される。

そのため、大阪万博の環境アセスは大阪市環境影響評価条例に基づくものであるが、愛知万博の環境アセスを継承・発展させる必要がある。愛知万博アセスの成果といえる「博覧会理念の実現に資するアセス」「会場計画と連動したアセス」をめざし、とくに「長期的な地域整備事業のアセスとの連携を図る」に注目したい。

大阪湾の人工島・夢洲という開催予定地にふさわしい環境アセスが求められる。また、大阪万博は「SDGs が達成される社会」を開催目的としており、会場予定地である夢洲の環境アセスについても、SDGs からの視点も重要である。

以下、方法書のなかで、とりわけ重要と思われる点にしぼって意見を述べる。

第1章 事業計画

事業計画が全体として不明確であり、生煮えの事業アセスになりかねない。

とくに 2 ページの開催場所の選定の経緯は、7 ヶ所の万博会場候補地の中から、夢洲が選定された理由が曖昧である。「会場への交通アクセスも確保できる」とあるが、鉄道（地下鉄延伸）に関しては計画段階のものである。会場選定の経緯は、万博の環境アセスの前提をなすもので、候補地の順位付けなどを具体的に示す必要がある。

5 ページ以降の会場計画についても、夢洲の地形・地質・地盤、さらに埋め立て状況などを勘案して策定されたのか。とりわけ夢洲のゾーニング、舞洲駐車場及び出入経路について、策定の経緯を具体的に示すべきである。12 ページの工事日程は、この環境アセスの日程との整合性は取れているのか。なお、万博予定地の隣接地で、大阪府・市による IR（カジノを含む統合型リゾート）が計画され、環境アセスも予定されている。本事業計画や工事日程などに、IR との関係は考慮されているのか。説明が必要である。

なお、大阪万博は「SDGs が達成される社会」を開催目標しているが、事業計画に SDGs の記載がなく、第 2 章以降にも指摘がないのは問題である。

(2020 年 1 月 5 日)